

市民ネットワークわかば まちづくり通信

〒264-0033 千葉市若葉区都賀の台 4-5-15

☎043-284-2339 fax: 043-284-2362

ホームページアドレス <http://www.chibanet.jp/wakaba/>

No.76

投票に行こうよ!

なぜ選挙に行くのか

- ◆税金を払っている私たち。その使い道を決める人を選ぶのが「選挙」。払っぱなしで口を出さないのは、もったいない。自分の目で見て耳で聞いて確かめた人にお金の使い道を決めてもらいたい。
- ◆子どもには選挙権がない。けれども議会で議論されていることは、子どもの将来に関係することばかり。自分の将来のことに自分で意思表示できない子どもの代わりに、選挙に行くのは大人の責任だと思う。
- ◆若者に比べて高齢者の投票率が高ければ、高齢者に優しい政策が優先されるのは当たり前。自分たちの世代にも税金を使ってほしいと思うから、選挙で自分たちの世代のことを考えてくれる人に投票する。
- ◆基本にあるのは、自分のことは自分で考えるという姿勢。選挙に行かないのは、大事なことを人まかせにしていることと同じではないか。

投票に、行こうよ!

5月26日は千葉市長選挙、7月は参議院選挙。参議院選挙の1票は日本が再び戦争できる国になってしまうかどうかを左右する大きな1票になります。



正門近くにできた合葬墓

市営桜木霊園に合葬墓が完成

八角形の地上1階、地下1階の建物。三方が開け放たれ、中央に黒くつややかな球体の石が見える。今回整備された合葬墓だ。

5月には申し込み受け付け。7月に資格審査。10月から供用開始。使用料は1体70,000円(施設の維持管理費込)。納骨して30年たつと合祀される。継承者がいなくても申し込める。年400体受け入れ予定。

説明では、骨壺を職員が受け取り合葬墓に入って納めてくる。親族たちは中に入ることはない。お線香は使えず、献花のみとのこと。あまりに簡単で戸惑ってしまう。

合葬墓を見学し、自分の最後をどのようにしたいのかいろいろな埋葬法を調べて考えていきたいと思った。(福田)

親が頑張らなくてもいい 福祉を目指して



小林保子さん
(東京福祉大学短期大学部教授・ウイメンズラボ代表取締役)

2月11日千葉市民会館にて、小林保子さんの講演「女性の力で輝く福祉」を聞きました。重度の障がいがあった娘さんと16歳の時に死別した小林さん。障がいのある子の親達が頑張ることで、障がい者に対する社会の目や制度を変えてきた歴史を語り「福祉に関わる一人ひとりが持つネットワークや得意分野を生かし、経営を成り立たせる意識を持って取り組む。それが家族だけが頑張らなくてよい福祉に繋がります」と結びました。

印象に残った内容は…

- ★栃木県足利市にあるこころみ学園のワイン醸造場「ココ・ファーム・ワイナリー」(知的障がい者の働く施設)では、商品開発に力を入れ、市場で認められる品質のワインをつくっている。
- ★経営的に成り立つ組織をつくるためにはリーダーが経営マインドを持つこと。また組織を存続させるためにはずっと同じ人がリーダーをするのではなく、新たなリーダーに託すことも必要。
- ★ネットワークづくりや情報収集に努め、インターネット上で寄付を募る仕組み(オンライン寄付)を活用する、色々な基金にチャレンジするなどして資金を調達していく。基金を受け取ったらフェイスブックやツイッターなどでその基金の宣伝をすることで、企業を味方につけていく。(岩崎)

ちゃんと選挙に行く大人になってね!

模擬選挙 in 仁戸名小学校

2月12日に中央区の仁戸名小学校で行われた模擬選挙を見学しました。若者の選挙離れを防ぐため、千葉市が千葉県弁護士会と協力し、将来有権者となる小学生を対象に行っている全国初の取り組みです(平成24年度からスタートし、現在まで9校で実施)。

子どもたちは仁戸名市長候補(仮名)の演説を聞き、どの政策が一番いいか自分で考えます。市にある空き地の活用方法が争点です。山田さんはショッピングセンター。鈴木さんは総合公園。田中さんはスポーツ施設を建てたい、と訴えました。ショッピングセンターの営業時間やスポーツ施設の利用料金などを活発に質問する子どもたち。

本物の投票用紙に書き、投票立会人が見守る前で投票箱へ。投票者が59人のため開票作業はあっという間に終わり、25票を獲得した山田さんが当選しました。



記載台や投票箱は実際の選挙と同じもの

落選者に投票した34人に対し、投票自体が無意味ではないことを主催者側はきちんと伝えた方が良かったと思いました。また弁護士会だけでは実施校数が増やせないことから、模擬選挙を行える市民団体がもっと必要と感じました。(岩崎)

市民ネットワークわかばの大人の社会科見学
3月29日、16名が参加。「光の村授産園」(知的障がい者の教育機関)・「東部産業」(植物廃材を資源化する会社)・「OXエンジニアリング」(特殊車椅子、自転車などの企画・開発・製造会社)の3ヶ所をおまごバスで回りました。
各訪問先で資料を基にきちんと説明を受け、知らなかったことがいっぱいあった驚きと、のどかな中田町を桜の花見をしながらのんびり歩いて、初めてお会いした方々とも仲良くなり、充実した1日でした。(福田)



▲光の村授産園
朝早くから販売用パン製造に励む園生たち



▲東部産業
不要樹木をチップ化し堆肥や地面カバーに再利用



▲OXエンジニアリング
パラリンピック用の車椅子も製作

傍聴記 常任委員会

常任委員会は、議員の人となりも見えてなかなか面白い。ただ、あらかじめ準備した項目に基づき質問するため、他の会派が質問した内容と重複していても淡々と質問をし、回答する職員もそれに淡々と答えている。うーん、時間の無駄だ。重複項目は省き、更にもう一歩突っ込んだ質問をする、もしくは他の質問に切り替えるなど、そこで議員個人の力量を見せてほしい。(金田)